



ぶどうの枝

2017年
春号

天が地よりも高いように…（3）

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

牧師インターンの2年間（名古屋と仙台）を終えて、私が最初に置かれた教会は東京大田区にある「大岡山教会」でした。この辞令が届いたのは、もちろん仙台教会在任中でしたが、仙台教会にゲストとして来られた大先輩の某先生が「磯部先生は、どこに行くことになりましたか？」と尋ねます。そこで「大岡山教会という教会です」と答えますと、返って来た答えが「そう、大変ね」。希望を持って新任地に行く前に、「変なことを言われるな」と瞬間思いました。しかし私も若くて怖いもの知らず。主任牧師の守護から巣立って一人立ちすることに、私の胸は高鳴るのですでした。

しかも今度はインターン時代とは違って、結婚して間もない親愛なる家内も共います。新幹線まで見送ってくださった仙台教会の方々との別れを惜しみつつ、東京に赴きました。大岡山教会は、東京23区にあるとは言え、大都会の中でも自然の豊かなところにありました。近くに「洗足池」。日蓮上人が足を洗ったとかいうことでその名がつけられたと聞いています。またこの池の傍に幕末の志士、勝海舟の墓地があり、小説家の正宗白鳥氏の家や、作曲家の猪俣公章氏の家も近くにありました。

有名人、著名人がそこかしこに住んでいるという所でした。さて肝心の大岡山教会ですが、教会歴史には特別のものがあります。前身が神田神保町にある神田教会で、これが大岡山に転居したとのこと。しかもその当時の牧師は、セブンスデー・アドベンチスト教団でも日本の開拓伝道者として

名立たる国谷秀（くにや ひいず）牧師でした。

私が着任した時の大岡山教会の教会堂は、40年を経た今でもモダンな風采を保っています。2Fの礼拝堂内は、絨毯が敷かれているのですが、土足でOKです。



説教をされる磯部牧師

私の前任者は、当時SDA聖人の一人という評判の及川吉四郎牧師でした。この立派な大先輩牧師からインターン終えて間の無い私が、そのバトンを受けるのです。だんだんに「この若僧で大丈夫なのだろうか？」と一抹の不安も感じましたが、「祈って始めれば大丈夫！」着任した日、礼拝堂に跪いて祈ったことを覚えていません。果たして、いろいろな出来事が待っていました。そのどれもが、私を鍛えてくれる素晴らしい経験となるのです。今回はそのことを書かせていただきます。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ書55:8, 9節）

「闇を迫りやる力（その２）」

2016年11月5日千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』から

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

聖書は、目には見えないけれども、天に創造者なる神様がおられてその神によって書かれた不思議な本です。この本は、素直な心でこれを読む人々の心を変えてきました。元死刑囚だった新垣さんもその一人です。

以下、（ ）内は前回のおさらいです。
（この人は太平洋戦争時に罪の無い人を上官であった憲兵の命令で二人ほど殺害し、死刑囚になった人でした。



なぜ新垣さんが死刑囚になったかといいますと、これも憲兵の指図で「俺と一緒に死のう。俺はお前に彼らの殺害を指示したことを語る。お前は、自分

が彼らをやったと言いなさい。こうすれば一緒に死ねる！」ところが彼に殺害を命令した上官は、自分が彼に殺害を指示したことを隠します。その結果、憲兵は釈放され、日本に帰りました。一方、新垣さんは、憲兵に命令されたことを言わずに、自分の意思で二人を殺したと告白したために死刑囚になったのです。）

後にその事実を知った新垣さんは、自分を騙した憲兵への恨みや、米国への憎しみに満ちた心で獄中生活を送ります。しかし牢屋において、同じ囚人のダニエル川上という人から聖書と聖書通信講座を渡されました。最初は異国の宗教本である聖書を開くことを拒否していたものの、日本語の読み物に飢えていた新垣さんは、やがて日本語の聖書通信講座を学ぶのです。

冷えた心は、とても温くなりました。



その結果、この方は模範囚になり、その変わりぶりを見た刑務所の所長の力尽くもあって、当時のアイゼンハワー大統領の特赦を受け釈放されました。そして帰国し沖縄で牧師になり、沖縄のパウロ

と呼ばれるほどの活躍をしました。

もう一人の人をご紹介します。この人、何年か前に、その体験談をご本人より直接に送って頂き興味深く読ませていただいた人ですが、それは勝矢忠さんという人の話。忠さんの人生、それは悲しいスタートでした。

しょうやただし

忠さんが5歳の時に突然父が亡くなり、一家はそれぞれ離散し、忠さんは神戸の老夫婦のもとに養子に出されました。忠さんにとって養母は、忠さんにとって冷たい感じのする人で始めからなじめなかったという。寂しかった忠さんは、悪の世界に身を投じるようになります。一度は立派な仕事場についた忠さんでしたが、だんだんと会社を休んで賭博にはまってしまうのです。

そのことが養母に知れて、二人の間はますます陰悪になりました。ある日のこと、養母は忠さんが賭博場に行っているのを見計らって警察に通報。そこにいた人たちと一緒に逮捕されてしまいます。

3ページに続く



忠さんは未成年ということで少年鑑別所に。忠さんは鑑別所の拘留期間は賭博程度ですと1ヶ月というのを知っていました。やがて家庭裁判所に忠さんと養母が呼び出され、審判が始まります。判事が忠さんに向かって「二度と賭博行為はしないように」といい、釈放しようとしたら、すると養母はあわててそれをさえぎり、「判事さん、待ってください。この子は、これくらいのことで懲りるような子供ではありません。もっと厳しいところで罰を与えて心を叩きなおしてください。お願いします!」と叫びました。

釈放されるものと思っていた忠さんは、目の前が真っ暗になります。親の異議は、子供の罪を重くするらしく、忠さんは少年院に入れられてしまいます。このことから忠さんはますます養母を憎むようになるのです。しかも忠さんが少年院に入っている間、忠さんを除籍にしました。

16歳になり刑期を終えた忠さん、その後も悪を行い続け、少年刑務所に4年3ヶ月。その次には、漫画のルパン3世のように数人の仲間と実に大胆かつ大規模な窃盗を行い、大金を手に入れました。が、捜査の手が入り、懲役房（ちょうえきぼう）に2年6ヶ月の間、閉じ込められました。そこで忠さんは極度に健康を害し、体調を崩したまま神戸に帰ることになります。

やがて咳の後、喀血をし結核に冒されたことを知ります。1年ほどでやせ衰え、自分の死期が迫っていることを悟りました。レントゲン検査では、両肺は完全に犯され、ガスがかかっている状態。2月の寒い夜のことで、忠さんは意識が朦朧としていました。そして薄れゆく意識の中で、彼は自分の人生をおさらいし、

「なんという、みじめな人生なのだろう」と思いました。そして「こんな闇の人生だったら、生まれて来ない方が良かった」と自分の人生を呪いました。ところが薄れ行く意識の中で忠さんは思いました。「死は無ではない!死の彼方に死よりも恐ろしい何かが待っている!」と。忠さんは、ここで自分でも思いもよらない言葉を天に向かって叫びました。「神様!助けてください。このまま死ぬのは嫌です!一生このベッドの生活でも良いですから、もう一度生かしてください。そして生きて来て良かったと感謝して死なせてください!」と。そう叫んだ瞬間、物凄い力が病室の天井を突き破るように、弱り果てた身体に注ぎ込まれたと忠さんは語っています。

忠さんは、不思議なことにベッドから降りて、立ち上がることが出来ました。そして病院の屋上にのぼって夜空の星を眺めて、この広大な宇宙の彼方に、私の叫びを聞いて助けて下さった神様がおられると信じました。夜空の彼方を見上げながら「神様、ありがとうございます。わたしはあなたがどの神様であるか知りません。しかしきっとあなたを尋ねだして、感謝をささげます」と言いました。それから忠さんの神様探しが始まりました。看護婦さんに「宗教の本を全部持ってきてください」と懇願しました。

4 ページに続く



そして持ってきてもらったのですが、どの本を読んでも違う。忠さんはこの時キリスト教があることを忘れていました。看護婦さんの持って来たものの中にはキリスト教の書物がありませんでした。しばらくして忠さんの隣のベッドの方の枕元に新約聖書を見つけました。「おや、まだキリスト教があったぞ」と思いました。この人に声をかけましたら、「この聖書はもらったもので自分は興味がない」という。忠さんは「しめた!」と思い、聖書を譲ってもらい、読み始めたのです。聖書の言葉に触れたとき、「あっ!」と驚きました。あの時の神様がおられることを衝撃的に感じました。しかし読み進むにつれて、心は燃やされつつも、頭では疑惑でいっぱいになりました。たとえば「イエス・キリストという人が十字架の上で悲鳴を上げて死んだこと。それをクリスチャンたちはなぜこんな弱い人を信じているのか。どうせならもっとキリストを英雄的に書いておけばよいのに…」と。

しかし読み進むにつれて、いつしか彼の心は不愉快に感じるようになりました。罪意識が襲ってきたのです。そして悶々としている時に、一つのみ言葉が心に映し出されました。「もし私たちが、自分の罪を告白するならば、神は真実で正しい方であるから、その罪を許しすべての不義から私たちを清めてくださる。」（Iヨハネ1章9節）の御言葉でした。こうして忠さんは、「そうだ!自分は今まで神様に罪を告白したことがない。この最後の時に、もしこの罪が許されて苦しみから解放されるなら、神様にすべての罪を告白してみよう!」

そして思いつくままに数々の罪を告白しながら自分は何と罪深い人間なのかということに気づくのです。

さらに果たしてこんなに罪深い汚れた者が、神様に罪の告白をただけで許される

ののだろうかと思いました。こうして、脳裏に浮かぶ、すべての罪の告白を終えた時、「神様、私を哀れんでください。私にはまだ自分で知らない罪があると思いますが、どうかお許し下さい」と祈りました。その瞬間、罪を背負って死んでくださったイエス・キリストの十字架がはっきりと写しだされました。

「イエス様、私はあなたを信じます!」。こうして忠さんは全く新しい人に変えられて行くのです。そして不思議なことは、結核菌に冒されているはずの肺のレントゲンを取ると、異常が見当たらなくなっていました。やがて病院を退院した忠さん。彼はどこに向かって行ったのでしょうか。忠さん、養母の元に!聖書に触れて変えられた自分を母に知ってもらおうと、除籍はされているものの養母の家に急ぐのです。忠さんと養母、果たしてどうなったのでしょうか?この話については、講演②「輝いて生きる力」においてご紹介いたします。



今回掲載の記事は、2016年11月5日（土）千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』にて講演されました演題「闇を追いやる力」の（その2）です。（その1）は「ぶどうの枝冬号（第5号）」に掲載いたしました。（その3）は「ぶどうの枝」夏号にて掲載いたします。

『ハーモニカ、不思議な音色の世界』

—サンセット・バイブルカフェにご参加下さった方から記事を頂きました—

金田 敏彦（教会員のご家族）

ハーモニカは不思議な楽器です。

何故って、まずこの楽器の存在はみんなが知っているのに、その奥深さを知っている人は極めて少ないのです。

トウモロコシをかじるようにくわえ、息を吹き込むだけで音が出るので、赤ん坊でも音が出せます。簡単なメロディーならば三十分もあれば吹けるようになります。

それなのに、神髄に達するのは非常に難しく、奥深い楽器です。プロの演奏家もいます。持ち歩きも簡単、演奏の度に調音する必要がありません。その上、他の楽器と比べてかなり安価です。なので、ずっと昔から、庶民に親しまれて来ました。大抵の楽器は音程の変化を指の操作で行うのに、この楽器は口の加減で行います。吸っても音が出るという変わった楽器です。

木下進先生は千葉市内を中心に、この不思議な楽器の演奏指導を長年行って来られました。教えを受けたのは主に中高年の方々です。これまで楽器を全く触った事が無い方もおられます。市内のあちこちの公民館にハモニカクラブが作られました。丁寧で根気強い先生の指導の下、大勢の方が

木下先生のハーモニカ演奏に
大勢の皆さんが集まりました。

練習に励み、楽しみました。その成果が発表会で披露され、美しい曲が高齢の皆さんだけで合奏されました。これまで聴く側だった方々が、演奏する側に廻った瞬間でした。本当に素晴らしい出来事でした。

十月のサンセット・バイブルカフェで木下先生がハーモニカ独奏をして下さいました。普段自分が吹いているものと同じ楽器とは思えない素晴らしい演奏でした。

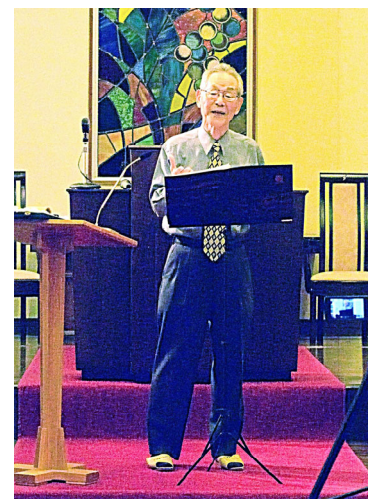
先生の奏法と感性が、楽器が秘めていた可能性を引き出したのです。ハーモニカの奥深い響きで礼拝堂が満たされました。

この楽器の音色に郷愁を感じるのは何故でしょう？

金属の振動板は、音叉のような澄んだ音を出しはしません。でも哀調を帯びた音色には、忘れていた情景を蘇らせる力があります。ハーモニカを吹く人の、そして聴く人の気持ちを大らかにする力があります。それがノスタルジーを誘うのでは、と思います。

この夕べの一時、皆さんの心が癒されました。

木下進先生のハーモニカ
演奏前のお話の場面



聖地エルサレムを訪ねて

千葉キリスト教会 関 善一

2015年6月10日から6月22日まで憧れの地イスラエルを妻と二人で訪ねることができた。同じ年の1月シンガポールからイスラエルに居を移した娘が航空券それも家内の健康を配慮してビジネスクラスを用意してくれたことによる。成田を昼の12時に出て、モスクワ経由で(3時間待ち)テルアビブ空港に午後11時半過ぎに無事到着した。老夫婦故かスムーズに入国できた。出迎えの娘たちの車で深夜宿泊先のマンションに着いた。長旅だったが、恵まれた一日となった。

ヴィア・ドロローサと聖墳墓教会

午前中ゆっくり過ごした私たちは、午後、早速娘の案内でバスを乗り継ぎエルサレム旧市街に向かった。まず驚いたのは、繁華街などでみられる銃を携えた若い兵士たちの数の多さだった。その後も何回かバスを利用したが時に通勤なのか十人くらいの兵士と乗り合わせたこともあった。現実のこの国の姿だった。

さてローマ帝国総督ピラトの官邸での裁判で有罪とされたイエスは、十字架を背負わされ処刑地ゴルゴタへ向かう。その道がヴィア・ドロローサ(悲しみの道)で全長約1kmあるという。石畳の黒光りした狭い道、この道を主が昔歩かれたのだ、しかも重い十字架を背負って、そんな姿を見世物のように見物する群衆と対照的に恐らく涙して見つめる母マリアのことなど感慨が次々に浮かんでは消えた。ガイドブックによればこの辺りは当時も今も繁華街とのこと。現在は世界中から訪れる人々によって活気に満ち満ちていた。しかし地元の人の話ではイスラエルは物価が高騰し、特にホテル代が高く、そのためエルサレムなど訪れた観光客は、宿泊は隣国のトルコに行ってしまうとのことだった。ヴィア・ドロローサの終点に位置するのが聖墳墓教会である。聖書に記されている『ゴルゴタという所、すなわち「さるこうべの場所」』に建てられた教会である。ゴルゴタとはさるこうべという意味があり、埋葬された地形が頭蓋骨の形に似ているとか、人類最初の人間であるアダムの頭蓋骨が埋葬されているから

といわれている。教会内にはイエスの墓、天使の礼拝堂、聖ヘレナ聖堂、十字架発見の聖堂、イエスの十字架、香油を注がれた石などがある。洞窟だったされるイエスの墓は、大理石の彫刻やビロードの布がろうそくの光に照らされて幻想的な空間になっている。内部は、狭い場所二人か三人のスペースしかない。静寂とろうそくの光のなかで、遠く日本から聖地を訪問していることを改めて実感することができた。

「シモンがイエスに代わって十字架を背負った場所」の関夫人



7 ページに続く



聖墳墓教会内で
「イエスの墓」を見る
関さんご夫妻



嘆きの壁

6月12日（金）、イスラエルでは金、土曜日が安息日で役所も会社も休み、近くのレストランも金曜日の日没から土曜日の日没まで休みとのこと。朝7時ころ起床して、コーヒー1杯を飲んで、娘の運転でエルサレム旧市街に向かう。今日もいい天気。日本の真夏の気候だ。日本では梅雨のこの時期、イスラエルでは雨が降らないとのこと。確かに私たちの滞在中一度も雨に合わなかった。さて車をアラブ人が経営するパーキングに預け、徒歩で妻と娘そして私の3人で城門をくぐって嘆きの壁に向かった。

嘆きの壁はユダヤ人にとって最も大切な祈りの場といえる。1948年からヨルダンの管理下とされ、ユダヤ人は壁に近づくことすら許されなかった。だが1967年6月7日の6日間戦争の結果、この場所で自由に祈ることができるようになった。実に1900年に及ぶ非願が達成されたという。現在もテロ防止のため壁に通じる通路でイスラエル兵による手荷物検査が実施されている。私たちは日本人とすぐ分かるようで、車の検問所と同様にスムーズに通過できた。ここではノースリーブや短パンで壁に近づくことは禁止されている。男性は壁に向かって左側、女性は右側と定められている。私も壁に手をあて、祈りを捧げた。長年に渡る念願の実現を感謝し、世界の平和、私たち家族や友人、知人の祝福を祈った。この日もまさに真夏の強い陽が容赦なく照らしていた。そこから歩いてダビデの墓、シオン

の丘、最後の晩餐が行われたとされる部屋さらにマリア永眠教会を訪ねた。近くのレストランで軽い昼食を取りタクシーに乗ってヴィア・ドロローサへ行き、その後駐車場に戻った。なぜか車のエンジンがかからず、やっとの思いで始動し、午後6時ころ帰宅した。その日もイスラエルに来たことを実感した。

「嘆きの壁」の写真
(右から2人目が関夫人)



8 ページに続く

ナザレへ

6月13日（土）、朝ゆっくり起きて朝食をとり、12時45分娘の運転でナザレに向かい出発する。約2時間でナザレに着く。宿泊先は日本という民宿でアレキサンドリアハウスという。建物には誰もいないので勝手に中に入る。3時半ころオーナーが姿を現す。早速部屋が割り当てられる。その日の宿泊客は私たち3名のみとか。すぐにイエスが育ったナザレの町をあてもなく散策し始めた。受胎告知教会、聖ヨセフ教会、聖ガブリエル教会などを巡り宿に戻る。少し休んで夕食、宿泊料をカードで支払い再び受胎告知教会を訪ね、そこを起点にしてランタン（ローソク）を手にもって行進する列に加わった。再び出発地に戻り解散され、私たちも宿に戻った。その夜もよく眠った。

ナザレからガラリア湖ティベリヤへ

6月14日（日）、朝6時30分起床。洗顔とシャワー。午前7時オーナーミッシェルさんが出勤？してきて朝食を作ってくれる。オーナーはとても分かりやすい英語で日本にも旅行したこともあり新幹線に感銘を受けたとのこと。敬虔なカトリック教徒であると言っていた。サービスとして昼食用のサンドウィッチまで用意してくれたのだった。午前中に受胎告知教会での礼拝に参席し、シナゴグ教会、青年イエスと教会巡りをして12時15分過ぎ車はカナに向かった。カナはイエスが水をワインに変えたという最初の奇跡を起こしたことで有名な場所である。そこのフランシスコ派修道院を訪ねた。記念に教会近くのワイン店でお土産にワイン4本を購入し、ガラリヤ湖ティベリヤへ向かった。宿泊先はティベリヤキリスト教ホテルでチェックインする前に両替をしたところ30,000円で8,000シェケルだった。ホテルで少し休んだ後、3人でガラリヤ湖畔を散策した。妻と娘は遊覧船に乗ったが私は一人ガラリヤ湖を眺めしばし感慨に耽った。夕食は湖畔のレストランでご当地名物のセントピータズフィッシュ（ガラリヤ湖でペテロが取ったとされる伝説の魚）食べる。夜宿先の質素なホテルに戻りシャワーの後、ベッドに入った。

ヨルダン川と洗礼

6月15日（日）朝6時半に目が覚める。妻と私は7時半パン、野菜少々とコーヒーの簡素な朝食を取る。9時にチェックアウトし、湖を離れマグダラへ、現在大規模な発掘工事中であるがその成果なのか展示場があり、イエス時代の船が展示されていた。さらに車でパンの奇跡教会（パンの奇跡が行われたとされる場所に建つ）及び山上の垂訓教会（山上の垂訓がなされた場とされる場所に建つ）を訪ねた後、ティベリヤのホテルに戻った。私がホテルに背広を忘れたからである。ホテルを後に私たちはガラリヤ湖の南端ヨルダン川に流れ出すヤルデニット向かった。そこで入浴用（洗礼）の白いガウンのようなものを借りて水浴した。イエスがヨハネから洗礼を受けたのは下流のエリコ近郊にある。すぐ近くに韓国からの巡礼団がいて牧師らしき人から洗礼を受けていた。水中にはメダカのような小魚がいてかかとを突つつくのだった。午後3時ころ帰路についたが、途中渋滞もあり午後7時ころ帰宅した。

おわりに

ここでは6月10日から6月15日までについて記した。その後、エルサレムに数回訪問したほか、死海、マサダ国立公園、ベツレヘム、テルアビブ、ヤッフォ、等を訪ね6月20日イスラエルを後にモスクワに1泊して6月22日無事帰宅した。神様のご加護にただただ感謝の旅だった。



祝福された「子供クリスマス会」

千葉キリスト教会 児童伝道 幼稚科・嬰兒科 栗山 直美

去る12月24日（土）の午後に子供クリスマス会が催されました。

インフルエンザや胃腸炎が流行したため、出席できなくなってしまったお友達もあり、残念ではありましたが祝福された楽しい会となりました。

午前中にクリスマス音楽礼拝が行われた後、今年は、昼食に手作りカレーとサラダが振る舞われました。生姜とにんにくの入った磯部先生の奥様のお勧めカレーは大好評でした。

プログラムも盛り沢山で、磯部先生のメッセージから始まり、子供の歌（人数が少ないながらもみんな大きな声で元気よく歌ってくれました。）、また毎年恒例でお楽しみの一つである山本一さん脚本による劇もありました。今年はシャローム若葉の職員の方や職員のお子さまにより行われました。皆さんの素晴らしい演技に魅了され途中涙してしまう場面もありました。

又讚美アフタヌーンの皆様による素敵

な歌声や、徳永さんによる紙を使つてのマジックと盛り上がりました。そして子供たちが考えてきた“なぞなぞ”もあり、大人も一緒に楽しみました。最後はトーンチャイムによる演奏でしめくくられました。

トーンチャイムは一昨年に吉田翔君を中心に発足されました。全員揃つての練習がなかなかできなかった中、素敵な音を奏でられたのではないかと思います。子供たちには、ノートとクッキーがプレゼントされました。

この様に、イエス様の誕生を多くの方々とお祝いできたことを心より感謝致します。

又このプログラムの準備に携わって下さいましたお一人お一人の上に、お祈り下さった皆様の上に豊かなる祝福がありますように。

そして、この場に集まって下さった方が一人でも多く神様と出会う機会となっていただければと思います。



子供たちのクイズに、
大人もたじたじ

素敵な音を奏でる

トーンチャイム



昨年のクリスマスに寄せての活動紹介

千葉キリスト教会 女性部家庭会書記 篠田 昌子

◎菜食料理教室

昨年最後の料理教室をもって54回を数えるに至りました。神様に感謝します。配食の皆様にも美味しいと好評を頂いたシュウマイの入ったクリスマスメニューを紹介致します。これからも皆さんに喜んで頂けるような体に優しい菜食料理を目指して参ります。皆様の参加をお待ちしています。

配食お弁当

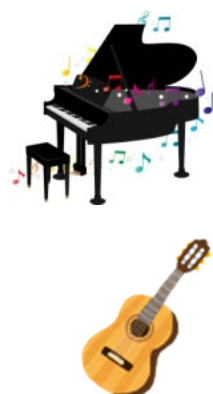
- ・クリスマス豆ごはん
- ・ベジタブルシュウマイ
- ・柿とカブのワサビ醤油和え
- ・里芋の柚みそかけ
- ・味噌汁



◎賛美アフタヌーン

昨年家庭会に発足した賛美アフタヌーンが、子供クリスマス会で賛美の時が与えられました。「クリスマスおめでとう」と「知ってますかイエスさまを」の2曲を賛美致しました。スクリーンに映し出された歌詞を見ながら、会場いっぱいに賛美の歌声が流れ暖かい空気に包まれました。

子供クリスマス会で賛美するメンバーの皆さん



愛あふれたクリスマスコンサート

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井紀子

2016年12月25日（日）千葉教会礼拝堂にてクリスマスコンサートが行われました。晴天にめぐまれた冬の日の午後、近隣の皆様と教会員で礼拝堂はいっぱいになり、イエス様のお誕生をお祝いするひとときとなりました。

コンサートは、加藤潤一さんの広がりのある豊かなホルンの演奏「ノクターン」（シュトラウス作曲）で始まり、フルート奏者 安村唯さんによる「フルート協奏曲第一楽章」（モーツアルト作曲）、ホルンとフルートのデュオで「パストラール」（イウエイゼン作曲）が演奏され、美しい音色は礼拝堂に響き渡りました。続いて、ソプラノ歌手 設楽芽祐さんが「アヴェマリア」（カッチーニ作曲）、「アメージンググレイス」などを心こめて歌ってくださいました。

磯部牧師のクリスマスメッセージをはさんで、後半は、オーボエ安藤徹さん、バリトンオーボエ藤澤正洋さん、ビオラ島信之さん、チェロ森大地さんによりクリスマスキャロルや「Sonata da camera」（ヤニチェ作曲）が演奏され、「アヴェ・ヴェルム・コルプス」（モーツアルト作曲）は、ソプラノ設楽芽祐さん、テナー三浦幸未知さんの二人のソリストも加わり演奏され、豊かな音楽の恵みをいただくことができました。

た。次に、ソプラノ歌手 岡田陽子さんが、「Holy City」などの三曲を晴れやかに賛美してくださいました。

ヘブンズコワイヤーは、イエス様のお誕生をお祝いして、「平和の祈り」など前半で三曲、「ピエ・イエス」「キリエ」など後半で四曲を賛美しました。ヘブンズコワイヤーには千葉教会コワイヤーはじめ、その日集まった他教会の皆様、ソリスト、個人参加の方々を含め、多くの方々の参加がありました。ヘブンズコワイヤーの賛美は、その名のとおり、天国での賛美の歌声となり、礼拝堂は喜びと感謝で満たされました。

清らかな思いの中、「O Holy Night」の全員合唱とお祈りをもってクリスマスコンサートは閉会となりました。

なお、ヘブンズコワイヤーは教会の枠を超えて、神様を賛美したい方はどなたでも参加できる賛美グループです。教会員でなくても、美しい讃美歌を歌ってみたいと思われる方は、ぜひ千葉教会においで下さい。毎週土曜日の午後に練習いたしております。

コワイヤー一同お待ちしております。

（連絡先）

千葉教会：043-231-3620

森 恵子：0475-82-4563



ヘブンズコワイヤーの賛美

室内楽グループの演奏



3月、4月、5月の行事

◇ 礼拝ご招待日

☆日時：3月4日（土） 午前10時50分～12時

☆場所：千葉キリスト教会 礼拝堂 ☆説教：千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

☆教会の礼拝にご参加してみませんか。天来の祝福とお恵みにお与りください。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ 千葉教会「ふれあいミニバザー」 ☆皆様のお越しをお待ちしております。

☆日時：4月9日（日） バザー：午前11時～12時 昼食 賛美と講演：午後1時～2時

☆場所：千葉キリスト教会 集会室☆バザーの後は聖歌隊の賛美と講演をお楽しみください。

☆講演：「輝いて生きる」SDA名誉牧師 松坂孝吉 ☆賛美と講演は礼拝堂です。

◇ 子供の日特別礼拝

☆日時：5月6日（土） 午前10時50分～12時

☆場所：千葉キリスト教会 礼拝堂

☆子供の日特別礼拝では、子供の皆様に、天来の祝福とお恵みと豊かなお守りが頂けますように、特別の説教と祈りの時を持ちたいと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ シャローム若葉「ふれあいバザー」

☆日時：5月21日（日） 10時30分～13時30分

☆開催場所：シャローム若葉 虹の家、第2デイサービスセンター敷地内（TEL：043-235-4867）

☆各種出店・模擬店など楽しい企画が一杯です。皆様のお越しをお待ちしております。

毎月の定期集会

◇ 菜食料理講習会

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆場所：千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費：500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時：毎月、第二（黙示録）、第四（ダニエル書）水曜日に開催します。午前10時～11時30分

☆場所：千葉キリスト教会集会室 ☆講師：千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時：毎月第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆場所：千葉キリスト教会 集会室

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができます。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：午前9：15～9：25

☆聖書の学び：午前9：25～10：40

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前11：00～12：00

☆シャローム若葉虹の家：午前9：30～10：10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしております。

【編集後記】「ぶどうの枝」2017年春号をお届けします。皆様のご感想をお寄せ頂けたら幸いです。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り：3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話：043(231)3620

FAX：043(231)1634

Email：sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ：

<http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/>

★発行責任者：

磯部豊喜 牧師

★スタッフ：

酒井 闕 吉田 敏英

綿引 秀子